

能楽堂の趣きある空間に、薫り高く響く  
ルイス・クラレット無伴奏チェロ

～曲目～

J.S. バッハ

無伴奏チェロ組曲第3番 ハ長調

エンリック・カザルス

組曲 ニ短調

ジョセップ＝マリア・ギッシュ

7句の俳句 (日本初演)

黛 敏郎

独奏チェロのためのBUNRAKU

ガスパール・カサド

無伴奏チェロ組曲

2023年

6月22日(木) pm3:00 開演(2:30 開場)

セルリアンタワー能楽堂

セルリアンタワー東急ホテル地下2階

渋谷駅より徒歩5分 ☎03-3477-6412

4000円 (全自由席)

- チケット取扱い  
チケットぴあ pコード241577  
e+ (イープラス) <https://eplus.jp>
- お問合せ/チケット取扱い  
スピカ ☎ 03-3978-6548 ✉ [spica@sepia.ocn.ne.jp](mailto:spica@sepia.ocn.ne.jp)

## ルイス・クラレット Lluís Claret (チェロ)



バルセロナを拠点に世界的に活躍するチェリスト。

アンドラで1951年に生まれ、両親と親交が深い20世紀最高のチェロ奏者パブロ・カザルスが名付け親となる。そのカザルスの影響でチェリストを志し、エンリック・カザルス（パブロ・カザルスの弟、チェリストではない）から徹底した音楽教育を受ける。リセウ音楽院を優等で卒業した後、フランス、イタリア、アメリカで研鑽を積み、モーリス・ジャンドロン、エヴァ・ヤンツェル、ジョルジ・シェボック、バーナード・グリーンハウス等から薫陶を受ける。

ボローニャ国際コンクール（1975年）、カザルス国際コンクール（76年）、ロストロポーヴィチ国際コンクール（77年）で次々優勝を果たし、一躍注目を集める。

以来、ブーレーズ、ミュンヒンガー、ロストロポーヴィッチ、ノイマン等の指揮者、ワシントン・ナショナル管、モスクワフィル、フランス国立管、チェコ・フィルなど多くのメジャーオーケストラとの共演、リサイタルなど、世界を舞台に活躍する。バルセロナ五輪の閉会式では、カタロニアを代表する演奏家として、ソプラノのビクトリア・デ・ロス・アンヘレスと共にカタロニア民謡「鳥の歌」を演奏した。

レパートリーはバッハから現代曲まで幅広く、名だたる現代作曲家（デュティユー、ルトスワフスキ、ブーレーズ、クセナキス…）から献呈された作品の初演も数多い。

室内楽にも力を注ぎ、著名な演奏家と共演を重ねている。

演奏活動に加え、後進の指導、主要な国際コンクールの審査員、音楽祭の音楽監督など幅広い活動を行っている。ソロ、室内楽、協奏曲のCDが数多くリリースされている。

現在、ニューイングランド音楽院教授。



スピカはおとめ座の一等星、ラテン語で“麦の穂”を意味します。

‘気軽に足を運び、心から楽しめるコンサート’を目指し、スピカは1990年に手作りコンサート活動をスタートしました。

踏まれても踏まれても伸びていく麦、  
頭を垂れずまっすぐに天に向かって伸びていく麦の穂のようでありたいと願っています。